福岡県交通安全施設業協会「第７回研修会」開く

改正された道路交通法やＡＩ活用について学ぶ



交通安全対策や職場の安全衛生への意識を高めた「研修会」

（一社）福岡県交通安全施設業協会（田中賢哉会長）の「第７回研修会」　は２０日、福岡市の福岡リーセントホテルで開かれ、会員を含む関係者約１００人が参加。研修会では福岡県県土整備部の「福岡県の交通安全対策事業について」や福岡県警察本部から「改定道路交通法等について」等の講話。また、（一財）あんしん財団から「職場の安全衛生への取り組みについて」の説明や、㈱山水製作所から「製造業におけるＡＩ活用の実践と展望」の講話があり、交通安全対策に対する意識向上を図った。



挨拶の田中会長

冒頭の挨拶で田中会長（日本ディックライト㈱）は「本日の研修会に６０社１００名の参加を頂きありがとうございます。今年度の協会活動を振り返りますと、５月の総会・意見交換会、６月の路面標示検定試験・事前講習会に続き、８月末から９月にかけては、６日間にわたり県への要望活動を行いました。その際、会員企業の技術力や資質向上への取り組みについて、県からも評価のお言葉をいただきました。また、１１月には、今年で９回目となる「子供守ろうプロジェクト」を北九州市小倉南区で実施し、１２月には寄贈式を開催する予定です。本日の研修では、県道路維持課、県警交通規制課から交通安全対策や改正道路交通法、あんしん財団から労働安全衛生、山

水製作所から製造業におけるＡＩの活用事例についてお話しいただきます。ぜひ今後の企業活動に役立てていただきたいと思います。私たちが担う交通安全施設の整備は、県民の命と安全を守るために欠かせない重要な仕事で、その社会的使命を改めて認識し、技術力と品質の向上に努め、社会から信頼される業界を目指して、皆様と共に努力していきたいと思います」と挨拶した。



講話の坂井技術主査
（県道路維持課）

このあと、福岡県県土整備部道路維持課交通安全係の坂井浩平技術主査が「福岡県の交通安全対策事業について」と題し、通学路の歩道整備、交通事故対策、無電柱化等について講話。続いて、福岡県警察本部交通規制課の松尾直大課長補佐は「今年度の県内の人身交通事故は、１０月末時点で１３，９８７件と前年より５３３件減少していますが、交通事故による死者数は８２人と、１１人増加しています。これからは夕暮れ時の事故が増える季節ですので、皆様も安全運転を心がけていただきたいと思います。また、道路交通法の改正により、自転車の青切符制度や生活道路の法定速度の見直しが行われました。特に生活道路では、原則時速３０キロメートルとなりますので、十分に注意して運転していただきたいと思います。今後も協会の皆様と連携し、交通事故の抑止に取り組んでまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします」と挨拶。福岡県警察本部交通規制課の生野真一規制管理係長が「改定道路交通法等について」と題し、大型標識の撤去の根処理方法や駐車禁止規制標識の設置方法等の講話が行われた。



講話の松尾課長補佐
（県警察本部）

休憩を挟んで、（一財）あんしん財団経営企画部マーケット開発室の鈴木修一室長が「職場の安全衛生への取り組みについて」と題し、安全衛生管理の重要性と自社の現状を診断するチェックリスト基本版・詳細版の活用方法や対応策の講話。この後、㈱山水製作所開発加工部の岩崎正鷹課長が「製造業におけるＡＩ活用の実践と展望」と題し、ＡＩを使って業務の効率化と品質向上を実現した事例報告があり、出席者は話に耳を傾けながら、メモを取るなど熱心に聴講していた。



講話の生野規制管理係長
（県警察本部）



講話の鈴木室長
（あんしん財団）



講話の岩崎課長
（㈱山水製作所）